

5C19 回目キングダムセミナー20260711

賛美

1 番；今日が、その日

2 番；主は勝利をおさめ

7 番；今、目覚める者よ

19 番；主よ、汝（な）が栄光があらわれるとき

前半:16:59.99

幸いな信仰の歌を感謝します。

はい、7月のキングダムセミナーとなりました。

1ヶ月、早いですね。1回1回、消化吸收しながら、今日も進めましょう。

我々の心の向きと、求めと放ちによって、主の臨在は我々と共にあります。常に共にあります。その信仰を使っていきましょう。神様は、私たちの内から出てくる、求める腕、あなたの手を求めておられます。神様がいつも手をさし出してくれるのではないんです。あなたから手を伸ばしなさいと。その信仰を使っていきましょう。

先月のメッセージを振り返ると、大切なことを話していたかと、・・・実は、自分で話したことを確認するために、アップされた文字起こしを何日か前から、読んでいたのですよ。それは今年の初め頃から、2月、3月、4月と、「ああ、ここでこういうことを言っているんだよね」とか、自分で読んで思い出しながら、「そうだ、そうだ」って。「そこだ。そこだ。」って。・・・皆さんに毎回、本当に濃厚なことを喋っているねえ。文字起こしを読んでいたら、もう赤文字でいっぱいになっているじゃないですか。それが余計に、強烈に目に届いてきます。

前々から創世記の天地創造を深めていますが、ここが全ての初めのボタンですからね。このボタンをどうはめるかで、後々の読み方が変わってきますよ。本当にそう思います。だから先月も、創世記のところを取り上げてました。それで先月は、創世記1章の26節、27節を取り上げました。『神の像』と『神の似姿』というところを取り上げて、深めていきました。20:45.42

そしてその後、初めのアダムは、『似姿』（神の性質）を現していくことに挫折してしまった。それをいかに回復されていったかというところまでを話しました。で、それについて、先月から今日に至るまで、皆さんから質問があり、個人的に話したりしながら、「ああ、そう、そこ大事だね」と、私もつくづく思わされたことがあったので、それをちょっと補足しながら、今日のテーマである 人と人との【王権による関係】というところを進めていきたいと思います。21:41.52

それで、皆さんからの質問のエッセンスは何かというと、一つは、人を『神の像』と『神の似姿』に造られたのだけれど、それはまだ〈完全ではなかった〉という点についての質問です。私が、まだ〈成熟したアダムの姿ではなかったんだ〉と言った点についてです。それについて、「今までそう聞いてこなかった」「完全なアダムがやってきたのだと思った」と。でも、私の言うのを聞いていたら、「確かに、アダムは、成熟した姿ではないですよ」と。「それもわかる」と。「その辺がもやもやして・・・」ということを言われました。

5C19 回目キングダムセミナー20260711

それともう一つの質問は、26 節で『神の像』と『神の似姿』で造ろうと神様は、そう決心して語ったのに、次の 27 節で実際に造った時は、『神の像』を造ったとだけ書いてあって、『神の似姿』がない。この点についての質問です。・・・「これをどう思いますか？」と言った後、私がはっきりしたことを言わないで、次に進んだらしいのです。だから、「そこのところをもう少し知りたい」という質問がありました。「そうだろうね」と思います。皆さん、思いますよね。「なんで、“神の似姿”がないのか」と。皆さん、これ、どう思いますか？23:50.40

ここね、同じ言葉を繰り返して言っているように取られやすいけれど、でも、『神の像』というのと『神の似姿』というのは、原文では言葉は違います。原文のヘブライ語では 2 つ並べて書いてあって、[我々の像]と[我々の似姿]に、[造ろう][治めさせよう]というふうに続けて言っているわけです。これを、どう解釈して訳すかは、訳す人それぞれです。日本語訳でも、『神の像』と『神の似姿』というのを同じ意味の言葉として訳しているのがあります。けれど、『神の像』と『神の似姿』を別個に訳して、それぞれのものとして訳しているのがあります。ここで、「あなただったらどう訳したいですか？」というところが問われているんです。

この『神の像』と『神の似姿』を、同じ意味として、言葉を変えて言っている「文学的な表現だ」と受け取るならば、まあ、それなりに、そうも、読めるわけです。けれど、この 2 つの言葉というのは、後の旧約聖書の中でも何回か使われていて、早々 1 回きりの、取り留めもない言葉ではないみたいなのです。

だから、別々な言葉として取るならば、神様は創世記の 1 章の 6 日目に、『神様の像』として人を造られた。そして、『神の似姿』の完成は、“時間をかけてなされるものだった”ということなんです。

つまり、『神の像』としては、〈神の権威〉と〈神の威光〉と〈神の絶対性〉を。その〈主権〉を分け与えて造ったけれど、神様の内側の性質そのものを現すものである『神の似姿』としては、それは、これからの日々の経験と体験、そして神様との向き合い方、交流の中で育っていくものであるとしたのではないかと。・・・そういう意味で、『神の像』としては造ったと。でも、『神の似姿』は、まだ完成していないんだと。ゆっくり完成していくものなのだと。27:32.76

そのことを今、詳しく説明し出すと、本当にそれだけで、時間をたっぷりとってしまうので、さっと言いますと、・・・詩篇なんかでは『神の像』とか『神の似姿』という言葉が、結構使われていて、それを歌にして表現されています。

たとえば、詩篇の中に [『神の像』をかたちとして持っている人間はなんて虚しいんだろう]と、嘆いている節があります。「え？それ、ちょっと待ってよ。神の像を持っているのに、空っぽで虚しいって、どういうことよ」と。「神の像として造られた我々に、なんで神の満ち満ちた豊かさ、その喜び、愛、それらのものが満ち溢れないのだろうか、主よ」と、嘆いているんです。28:37.68

また、他の箇所では、[『神の姿』を見つめた私は、満たされました]という箇所があるのです。つまり、「神の似姿」に接して、自分がその似姿に近づいていけば、私は満たされていきました」と言っているわけです。29:04.80

5C19 回目キングダムセミナー20260711

つまり、単なる同じ言葉を文学表現として、違う角度で違う言葉で話したというだけではなくて、『神の像』というものは確かにあるのだ。でも、『神の似姿』に達していないんだと言っているわけです。29:27.54

そこで、皆さん、今、聖書を持っていたら、創世紀の5章を開いて見てください。そこに神がアダムを造ったというアダムの系図の書き直しを神様が語り始めています。5章のここを、あまり取り上げられることがない。それは、とてももったいない箇所なんです。

5章の1節[これはアダムの系図(歴史の記録)の書である。神は人(アダム)を創造された日、神に似せて彼を造られ、]と、ほら、ここでは、『似姿』を[似せて]という表現で持ってきているんです。

・・・「いやー、ちょっと待ってよ」と言いたくありませんか？1章の27節では『似姿』はまだだったよね。ところが、この5章のここで語られるときは、[神に似せて彼を造られた]と書いてある。これって、どういうことでしょうか？

ここは、5章ですから、2章が語られて3章でしくじって、で4章でカインとアベルのことがあって、その後の話でしょ。すったもんだした苦勞の果てに、ここで、『神の似姿』を持ってきているんです。『神の像』というのは、もうあるから、これからは、『神の似姿』に充滿していかなければならない。だから、神に似せて、[男と女とに彼らを創造された。][彼らが創造された日に、神は彼らを祝福して、その名をアダムと呼ばれた]。・・・ここ、いいですか？男と女もアダムなんですよ。男だけがアダムと言っているのではないんですよ。このアダムの中に男も女も含まれているんです。そして神は、彼らを祝福して、彼らの名を、一つの名を“人”と、呼ばれたんです。32:07.00

で、時がたって、130年という時の間に『神の像』はあったけど、『神の似姿』はどうなったのか。それなりにしくじりはあったものの、アダムからカインに、『神の似姿』がその中にあったのか。それは、一体、どんな『似姿』なのか。かなりへたくってる(失敗してる)けどね。33:07.74

で、[彼に似た、彼の像どおりの男の子をもうけた]と書いてある。・・・ここ、ただ、アダムはセツを生んだと言えいいところを、なんでここに、[彼に似た]、[彼の像どおりの]と、言わなければいけないんですか？ここに、創世紀の1章との流れの中で、思いがこもっているでしょ。ということは。似姿と像を適当に聖書が使っているのではない。ここに、言いたい意味がある。

つまり、像は、もうすでにあるのだけれど、そこに満ち溢れてくる『神の似姿』が大事なんです。神の似姿をクローズアップして、5章で繰り返していると言える。

ということは、アダムに似て、アダムの像どおりの子を産んだ。それを受け継いでいくということでしょ。でも、それは決して完全ではない。そのアダムの集合人格の中に、我々はいるわけです。それを、第二のアダム(イエス様)が、完成してくれたわけですよ。それで、私たちは、第二のアダムの集合人格の中に入れば、我々は『神の像』とともに、『神の似姿』に完成させられていくのです。そうですね。35:27.23

5C19 回目キングダムセミナー20260711

さあ、そこで、もう一つの質問について、話しますね。神は人を『神の像』に造られたのだけれど、アダムは、まだ完全ではなかったのか？についてです。

神様が天地創造された時、一日、一日に、なんて言われましたか？・・・『それは良かった』と言っていますよね。『良かった』ということは、神様が造ろうとしたことが完成したということではないんですか？『良かった』というのを、なんと 7 回も言っているんですよ。

『良かった』というのは、ヘブライ語で「トーブ」と言います。「トーブ（良かった）」は、キングダムセミナーの聖書に対する初めの〈向き合い〉というものとすごく関わっているんです。「トーブ（良かった）」というのは、被造物である月や星が大陸や海や人間や空や鳥や動物が、理科学的に欠点がなく、完成なんだということを言っているのではない。神様が熱い自分の思いと心から相手を創造して、その思いを高めて語りかけた。そして、その相手が（応答して）現れた。その相手への『神の応答』が、「トーブ（良かった）」なのです。だって、造るのだったら、黙ってコツコツ造ればいいわけでしょ。でも神様は一つ、一つ言葉を発して言われるのです。

『言う』ということは、つまり、語りかけているんです。あなたがここに在るように。光があるようにと。語りかけて、そしてその次に、聖書はなんて書いてあるか。「すると、そのようになった」と、言っているわけ。・・・これは語りかけられた相手の応答なんです。それに対して神様は、今度「それを見た」と言うんです。「見て」、そして「それは良かった」と言っているわけ。38:46.14

ここで、何を言いたいのかというと、神が語りかけた相手への神の『応答』、その『現れ』への神の『応答』であり、相手と自分との『（相互）確認』なんです。そして相手への自分の満足と喜びと祝福。その『眼差し』なのです。つまり神様が呼び出し、現された。で、現れてきた相手と神様との関係性を『良し』としているわけです。グッドだったと。そこを『良し』としているわけです。

だから、創世紀の一章の神様の『願望』と『希望』と『熱い心』からの語りかけと、答えとした『現れ』と、そして、それを『見て』、それを『Good』とするのだというこの『応答』、『交換』というこの関係性を問おうとしたのだということです。40:29.58

それから、また質問が出るとお思いますので、言いますと、前にもちょっと言ったんだけど・・・神が創造された2日目。1章6節から8節「神は仰せられた。『大空が水の真ただ中にあれ。水と水との間に区別があれ。神は大空を造り・・・』と。水と水との間に区別があるように大空を造ったというこの2日目。ここに『良かった』はありません。なんで、空を造った時だけ、『良かった』と言わないの？」とよく聞かれるんですけど、そうではないのです。41・19.08

それは、次の9節に「神は仰せられた。『天の下の水は一つ所に集まれ。乾いた所が現れよ。』すると、そのようになった」と、応答がきている。それから、10節「神は乾いた所を地と呼び、水の集まった所を海と呼ばれた。神はそれを見て、良しとされた。」という、この「良し」が空を造った時の文と一緒に『良かった』と言っているんです。そして、11節以降のところに書いてあることが12節に「良しとされた」と、またなっているわけ。そういうことですよ。42:14.52

5C19 回目キングダムセミナー20260711

なぜ、8節で創造の第二日だと締めているのに、次の9節10節と一緒にして[良しとされた]となっているのか？
 についてですが、つまり、空と海と陸、この3つの大きな関係性をも含めて[良しとされた]ということなのです。空だけを[良しとされた]と言っているのではなくて、『空と陸と海との関係性』をもって、[良しとされた]というふうにするのが、ここの取り方ではないかと、私はそういうふうに原文から論されています。でも皆さん、違う取り方があったら、それはそれでいいと思います。

だから、この[良かった]というのは、相手を見て、観察して、何か量って、試して、それで採点して合格なのではないのです。試験の採点ではなくて、「あなたがそこにいてくれることが嬉しい」「あなたがそこに在ることが嬉しい」ということです。ですから、『良かった』という言葉は、神様の評価ではなく、どちらかといえば、神様の『受容』なんです。受け入れの表現。創世記はここから始まっているのです。

それなら、人間だけで良いのではないですか？でも、そうではない。ここが、神の奥義ですよ。天地万物すべてのものに神は呼びかけ、それを認め、受容し喜んでいてるんです。その神様の大きな見方を『包摂』と言うのです。包み込んで、その中に含める。『共に歩む』ということ。これは天地万物、地球の物体も全部そう。それが、今の世界のどこのつまり。この地球の大自然をどう愛するか。どう我々と共に生かすかということが、まさに今の時代に、問われているのではないかと思います。だからもし、欠陥のない『完全』だったなら、[良しとされた]ということであったならば、神様の創造はそこで止まってしまうですよ。完全なんだから。そうでしょ。

それから、ずっと前にも言っていることですが、第7日目で休んだ後の最後の一言についてですけど、・・・これ、あまり多くの人が訳したり説明したりしないのが、私としては、遺憾に思うところなんですけどね。創世記の2章の1節2節3節が第7日目です。この7日目の天地創造の7日間が終わった後の言葉の最後の一言に、[造るために]という言葉がつけられているのです。これまで、このことに多くの人は、注目してきませんでした。

それは、[ラアソート(造るために)]という言葉なんですけど、・・・「え？完全に終わって休んで、創造は終わったのではないんですか？」「もう終わったのでしょ。完成したと言っているではないですか」と、言われるかもしれません。

ですが、天地創造の7日間が終わった後の言葉の最後の一言に、[造るために]という言葉がつけられているのです。ここ、『造るために休んだ』という表現になっているわけです。それを見ても、今神様の[良かった]ということの深い意味がそこに解けてきます。47:43.02

そして、天地創造の最中、被造物を造った時、1章22節に、神様は、これから『産めよ、増えよ、海の水に満ちよ。鳥は地の上に増えよ』とされています。だから、[良かった]と言われた被造物は、完成品ではなく、これから神との交わりの中に生きて、実を結び続ける存在なんです。

ですから、『良かった』というのは、『あなたは、わたしとの交わりの中で生きるのだ。生きてよいのだ』とも、とれる神様の『宣言』なのです。48:41.34

5C19 回目キングダムセミナー20260711

怖い厳しい神様が、パッパッパッと思いの通りに造って、私たちも造られて、それで神様は評価する。良かったら良し、何かしくじったら罰という、そんな神様を想定していませんか？そうじゃありません。

親がね、幼い子供を見て、「良いね、良いね」と言う時がありますよね。小さな子供に、「いいねえ〜」と言うでしょ。それは、子供が 100 点だからではありません。10 点か 20 点であっても、その子が親に答えて、喜んでやっているから、「いいね」なんですよ。「いいねポイント」ですよ。よかった印。「100 点じゃないんですよ」と言いながらも喜んでいるのです。それと一緒に。50:13.87

親と子供の関係性のゆえに、「いいねえ」と。10 点でも「いいね」と。「ああ、いいね、いいね」と言ってね。そりゃあ、その子が小学校・中学校になって、赤点をもらって帰ってきたら、さすがに親は、良いねとは、言わないよね。「なに？これ。残念だよねえ」と言うよね。そこは、そう言うと思いますけど、その「残念だね」という根底には、親の「いいね」と思う気持ちがあるわけですよ。その子との関係性があるから「残念だねえ〜」と、こう言えるわけですよ。[良かった]ということの中には、この生き生きとした関係性というのがある。これが、大事なんです。だから、自分自身の中で、それがしっかりと確立して、書き換えられて来ることが必要です。51:29.46

で、今日の本論の中にある、私たちと隣の人、『人と人との関係性』も、『神の像』が私たちの中にある。『神の似姿』も関係性の中に、回復させられ建て上げられていっているわけよ。そしたら、小さい子供ではないけれど、私たちは互いに「良かった」と。「あなたがそこにいてくれて良かった」「私たちは出会えて良かった。本当に良かった」と言える。[良かった]と言えますか？言っていますか？神の似姿が湧き上がってくると、私たち出会う人みんな、[良かった]なんです。良かったと言えてくる。ですから、この創造というのは、神の願いがあって、神の願いの通りに現れ出て、そして、そうなったのです。

そして神はそれを、『見る』のです。この『見る』という言葉は、旧約聖書の中のキーワードなんです。まあ、新約でもそうなんだけど。で、神は『良かった』というこの 2 つの間の応答性。1 章の語り方というのは、聖書の最初から、最後まで流れている神の心を表す語り方なのです。そこに『我とそれ』ではないのです。53:51.66

だから、聖書の根源語を一言で言えば、『我と汝』ですと言っているわけが、ここにあるのです。神様が被造物を造る時から、心に思い浮かべておられる時からですよ。もう神様は相手を量り、相手を分別するような『我とそれ』じゃなくて、『我と汝』の関係性を始めから、息吐いておられるわけです。創世紀 1 章をじっくり読み終えた後で、心にいっぱい溜めていくようにできているわけです。

そして、『造るために』（創世記 2:3）なんだと。これから造るための初めの段階。それは『神とのしっかりした関係性』なのだよということを言っているわけです。

何度も言いますが、神様はあなたに、まず呼びかけ、語りかけ、受け入れ、祝福し、交わりに招き入れようとするのです。そこから、なのです。ですから、神が天と地を創造された初めから、聖書を裁きの神、量りの神、審判の神というイメージで読もうとするのは、やめてねと、1 章で言っているわけです。

5C19 回目キングダムセミナー20260711

ですから、造られたばかりは、まだ、いいのです。[裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった]と。2章25節にあるように、アダムの裸であったことを神様も恥ずかしいとは思っていなかったのです。アダムが裸で恥ずかしいと思ったのは、蛇がやってきてから。評価し、量るその基準を持ち込んだからです。その時に、彼は自分たちが裸だと知って恐れて、怖くなって隠れました。そして、[お前が裸であることを誰が告げたのか](3章11節)と、神様は問うておられるわけです。

わたしは何にも言っていないでしょう。そんなこと考えたこともないでしょう。誰があんたにそんな知恵を入れたのよ。こう問うているわけです。この語りかけそのものも、すぐに測りたい、間違ったらすぐに刈り取ってやりたいとか、追い出してやりたいとか、そういう神様の応答じゃないでしょ。

よくエデンの外から追い出されたとか、すぐそういう短絡的な構図で、エデンの園を語られるけど、それは要チェックですよ。未成熟な人に神様は、『OKです。あなたがいいんです』と。あなたと『歩もう』と言って、誘いかけ、招いておられるんです。ここをきっちりと、整理整頓しておきましょう。はい。58:27.06

それから、神様の『似姿』についてですけど、・・・神の『像』と『似姿』というものが、私たちの中に完全に回復していくという手だてを、神様はしてくださった。それは我々がよく知っているイエス・キリストの働きというわけです。それで、前半の最後に、第Ⅱコリント人の手紙、ここだけ読んで、前半を終わりにしましょう。第Ⅱコリンを開いてみてください。

第Ⅱコリントの3章の18節。少し前から読みますね。

16節から18節まで。[しかし、人が主に向くなら、そのおおいを取り除かれるのです。主は御霊です。そして主の御霊のあるところには自由があります。私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。・・・]1:00:24.00

ほら、ね。この[かたち]という言葉は注目なのです。ギリシャ語でこの[かたち]というのは、ヘブライ語で言う[像]という[ツェレム]と[似姿]という[デムート]というのを両方含めています。ギリシャ語では[エイコーン]と言うのですが、[主と同じかたちに][姿を変えられて行きます]ということは、[神の像]と[神の似姿]に変えられて行きますということです。[これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。]アーメン。1:01:24.60

我々のうちに内住される聖霊は、我々の側に、何のために来られたんですか？

それは、我々の中に『神の像』『神の似姿』を完成させられるために来られたのです。

この聖霊を認めていますか？この聖霊の働きを、あなたは歓迎していますか？ただ、「永遠の命の証です」と言って、「私には聖霊がおられるから・・・」と、それだけですか？その『永遠の命』の『永遠』は何を示すんですか？『永遠なる神の像』と『永遠なる神の似姿』を、あなたのうちにもたらせ、あなたを変えていくのだと言っているわけです。御霊と共なる歩みによって、変えてもらいましょう。1:02:51.18

5C19 回目キングダムセミナー20260711

それからもう 1 箇所、開きましょう。コロサイ人への手紙 3 章の 10 節。ここにも、『かたち』が出てくるんです。だから、創世紀の 1 章の語りだけに任せていません。聖書は旧約も新約も根本的に、そこに焦点を当てています。罪が許された。アーメン。永遠の命を得た。アーメン。でも、それはまだ途中です。

コロサイ 3 章の 10 節読みますよ。[新しい人を着たのです。新しい人は造り主のかたちに似せられて、ますます新しくされ、真の知識に至るのです。]・・・これ、いい言葉だと思いませんか？これを味わうには、やっぱり、もっと読んだ方がいいですね。ちょっと全部見てみましょう。

コロサイ 3 章 8-10[しかし今は、あなたがたも、すべてこれらのこと、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、あなたがたの口から出る恥ずべきことばを、捨ててしまいなさい。互いに偽りを言うてはいけません。あなたがたは、古い人をその行いといっしょに脱ぎ捨てて、新しい人を着たのです。新しい人は造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです]・・・『造り主の象』に、『造り主の似姿』にされ、それは、ますます連続して新しくされ、真の知識に至るのです。一度、ちょこっと、されたのではないのです。ですから、私たちが今知っている聖書の知識や奥義や理解などというの、もっと、もっと発展していくのです。これを知った時、私、もう走り回りたかったですね。今もそうです。もっと、もっと知りたい。もっと、もっと、です。神様。1:06:48

で、その後 11 節を見てください。[そこには、ギリシャ人とユダヤ人、割礼の有無、未開人、スクテヤ人、奴隷と自由人というような区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。]・・・もう、ギリシャ人やユダヤ人だの、パレスチナ人だのアラブ人だのペルシャ人だのそんなものはないと。それって、自分の秤で量った区別であり、違いでしょ。神様の関係性に神の像と神の似姿の『互いである』ことを思えば、そこにそういう違いは関係ないんです。乗り越えていけるのです。ものすごいことを、2000 年前のこの時代に宣言しているのです。

次の 12 節以降も、これを中心に語られていきます。12-16 節[それゆえ、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのためにこそ、あなたがたも召されて一体となったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい。キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くし互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。]・・・「神をワーシップする」、「礼拝をする」ということも、この『神の像』と『神の似姿』の溢れた状態なんです。

1:09:41.39

17 節[あなたがたのすることは、ことばによると行いによるとを問わず、すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい]・・・聖書の言うことって、創世紀の 1 章から一線が通っているでしょ。1:10:20

で、ここから、妻たちよ、夫たちよ、子供たちよ、父たちよと、続くわけ。これ、とっても大事なところで

5C19 回目キングダムセミナー20260711

す。この 18 節以降、これもセミナーのもうちょっと先に、御国の夫婦関係、家族、福音の奥義を取り上げるんだけど、全部ここに通っていくわけです。

ですから、私たちが、一体どういうものにされていくのか。これから明日、明後日と、自分はどうなっていくだろうか。どう『神の像』と『似姿』に変えられていくのだろうか、それにワクワクしましょう。楽しみにしましょう。自分が楽しみになってくると、楽しみに溢れた自分が見る隣人は、もっと楽しくなってくるのです。アーメン！

ということで、前回言ったことの補足をしました。もうちょっと深く受け止められるように、後半に続けられるように話しました。はい、休憩します。

後半:

はい、後半始めます。

さて、今回は、聖書の始めからの筋書きを追って話を進めています。キングダムセミナーも第 5 クールを迎えています。今までの 1 回から 4 回迄のところとは違って、さらに深掘りしております。ですから、この第 5 クール目から聞かれた人にとっては、「ちょっと待ってくださいよ」というところが多いかもしれません。

でもどうぞ、遠慮なく聞いてください。面と向かって語り合う中で、お互いに本当に深くなって、確立していくんですよ。ですから、「自分ひとり、孤独な感じでメッセージを聞いて、ちょっと耳に走りかじって、細々と聞いております」というのではなくて、そんな風に遠慮しなくていいのですよ。「私こそ堂々と聞かなきゃならない人間なんだから」と言って、「そこのところが、わからないですよ」と言って語り合いながらいくと、だんだんと深まっていくわけです。

で、『神の像』と『神の似姿』ということはこの本の中では『王権』という言葉を使っています。『王権』と聞くと、なにかブリブリ威張って偉そうにして、高慢になったようなイメージを受けるでしょうか？そのように受ける人は、やはり『王権』と書いてある前の初めから、ゆっくり読んでいただきたいと、そう思うのです。

この『王権』というのは、仕えるための能力です。主の十字架の中に自分を埋め込む能力です。

ということで、『王権』による関係性を焦点に話してきました。で、今は、パート 4 の【関係である神の国】というところ。95 ページになります。

この 95 ページのところから、私たち、〈人と人の関係性〉の中で、どういうことが起こるだろうか。どういうふうな関係性が押し広げられていくだろうかというところを取り上げています。もう何度もここを読まれた方は、お分かりのことだと思いますけど、今日の『神の像と神の似姿を持っている者同士の関係性』として新たに見て頂けたらと思うんです。なので、ちょっと読んでみます。

5C19 回目キングダムセミナー20260711

95 ページの《互いについての啓示を得る王権の行使》というところ。

私たちはもちろん互いの氏素性を知っています。互いの経歴や立場、性格や特徴を知っています。しかし今、もっと深く霊の目で互いを知ることが全く日常的なことになる日々に、私たちは入ろうとしています。たとえば、**マタイ 16 章 13 節～20 節の"イエスとシモンの関係"**をじっくり思い巡らしてみてください。**この二人の『関係』に『神の国』があります。**

はい以下、マタイ 16 章 13 節以降を取り上げています。ちょっと読んでみます。

16 章 13-20 節[さて、ピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、イエスは弟子たちに尋ねて言われた。『人々は、人の子を誰だと言っていますか』彼らは言った。「バプテスマのヨハネだという人もあり、エリヤだと言う人もあります。またほかの人たちはエレミヤだとか、また預言者のひとりだとも言っています。』

イエスは彼らに言われた。『あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。』シモン・ペテロが答えて言った。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」するとイエスは、彼に答えて言われた。『バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。わたしはあなたに天の御国のかぎを上げます。何でもあなたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。そのとき、イエスはご自分がキリストであることをだれにも言ってはならない、と弟子たちを戒められた。]

"ナザレの大工の息子"ということは、誰もが知ることのできたイエスについての知識です。また、ヨハネ、エリヤ、エリヤかもしれないとは、イエスについて人々のできる最大限の想像でした。しかし、父なる神の叫びは、イエスが誰であるかについて、人々がもっと深くこれまで以上の啓示を持つことなのです。シモンはその啓示を持ちました。

彼がそれをイエスに告げたとき、イエスはシモンに確証を与えました。それは父なる神があなたに与えた啓示だと。だれも他の人々が言うから同調して、「あなたはキリストです」と、告白するわけにはいきません。たとえ全世界が反対しても、「確かにあなたはキリストです。」と、自分自身の霊にしっかり刻み込まれた不動の認識にいたる必要があるのです。シモンは人々によってではなく、父なる神によって啓示を得たのでした。

しかしながら、父なる神による啓示は、シモンの側だけにとどまりませんでした。イエスは続けて、すぐさま言われたのです。

『それならば、わたしもまたあなたに言います。』・・・すなわち、**イエスの側でもシモンについての啓示を得ていたのです。**16:18-19[・・・あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。わたしは、あなたに天の御国のかぎを上げます。何でもあなたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています]・・・これがイエスの得たシモンに関する啓示でした。もちろん、これはシモンだけではなく、**イエスに関してシモンと同じ啓示を持っているすべての者に対して、イエスご自身が得ている啓示であることには違いありません。**

しかし、ここで注目しているのは、シモンが持っているような**イエスについての霊の認識は、シモン側だけではなく、イエスもまたシモンが誰であるかという霊の認識を持っていたということです。**どうか、これだけは基本的に

5C19 回目キングダムセミナー20260711

認識しましょう。あなたがイエスに向かって「あなたは私の主です」と告白したときに、イエスの方でもあなたについて何らかの啓示を持っておられるということです。

まず、第一にイエスとあなたとの間で、この互いの啓示の交換があったでしょうか？あなたは「イエスは主です」と言います。では、イエスはあなたにとって、どのような主なのでしょう。主イエスについてもっと深い啓示を得る特権をあなたは持っているのです。11:04.56

・・・ここまで読んで、言っていることが、そのように読み取れると思います。

そうすると、聖霊の説明の時に何度も言っていますけれど、・・・イエス様は『神の像』『神の似姿』ですよ。そうですね。私たちも信仰によって『神の像』と『神の似姿』を持っている。その私たちが今、顔と顔を合わせてここにいます。ラインの参加の方々もたくさんいます。みんなそれぞれ、我々のうちには神の霊、聖霊があるわけです。たとえばここに、10人いたとしたら、その聖霊はそれぞれ別個の（10個に分かれた）聖霊なんですか？という問題。

「あなたの聖霊と私の聖霊と違うよね」と言って・・・「おい、おい」と。そうではなくて、聖書が言うのは、私たちは「一つの御霊を飲む者とされた」のです。（Iコリント12:13）一人のお方を、私たちはみんなで持っているのです。それは、『神の像』。そこから『神の似姿』が、かぐわしく現れ出てくるのです。

これってね、頭で想像して「ふーん」と思って、それきりになってしまうかも知れないけど、いえ、いえ、これって「ふーん」で終わってはいけない、もうびっくり仰天するほどの現実なのです。聖霊との歩みについて、聖霊とどう付き合うかと言うところでも、何度も言ってきましたけど、私の中に『神の像』がある。あなたの中にも『神の像』があるということ、これは、びっくり仰天するほどの現実なのです。13:49.38

たとえば、私の中の『神の像』がピーッと震える。なにか溢れ出てくる。そうすると、同じ霊を持つ人は、別のところにも同じように震えるのです。一人の方を持っているから。

ギターを弾く人で、触ったことがある人は、よく知っていると思いますけれど、ギターの音を合わせるためにチューニングしますよね。その弦を合わせる時、街の中とかめっちゃ周りがうるさい時とかに、ポンポンとチューニングしても、わざわざしていてできないんです。めったにそんなところでギターを弾くことはないけどね。でも、もしうるさかったら、どうするか知ってますか？あのね、目でチューニングするんです。耳じゃなくて。見てなのですよ。どうするかというと、弦がこう6本あるでしょ。6本あるうちのこっちの弦とそっちの弦の、ここを押さえた音と同じにしなければいけない時、弦の張り方がピンと同じだったら、片方をピンと鳴らしただけで、全然触ってない隣の弦がピンと震えるのです。音が一緒だったら、共鳴するのです。シンクロするのです。15:46.44

だから、あなたのうちにある『神の像』の弦がピンと震えたら、それと同じ私の中にある弦が、ピンと震えてくる。私は何も話してなくても、聞いてもないのに、です。本当にこれ、すごいよ。そういうものなのです。それは、こっちの人がピンと震えて、こっちの人がピンと触れて、共鳴したのです。

5C19 回目キングダムセミナー20260711

でも、もし、同じ御霊を飲んだ私もいるのに、「私の中では震えなかった。」「なに？これって。あんたたちすごいじゃん。私の中でなんで震えないの？」と言う人がいたとしたら、これ、どう理解しますか？「ああ、私には『神の像』がないんだわ」ということなんですか？ここが一つの奥義なんです。17:03.42

それはね、神の共同体がどうやって前進していくか、どうやって進んでいくかという進み方があるのです。
たとえば、10人いて10人全部がピーンと震えたら、「10人全員がプルプルプルと震えて、アーメン！」と。そう言えば幸いですよね。そしたら、「ああそうだ。じゃあ、明日からこうだと言ってやっていけますよね。
けどね、前半に言ったように、神の共同体には、いろんな成長段階がある。だから、大人もいれば、青年もいれば、少年もいれば、赤ちゃんもいるんです。それぞれが、みんなが同じことで震えることはないのです。
それともう一つ、震えないのは、その震える行動に、アクションに、呼び集められてない、推し進められてない人は、その同じアクションに震えません。その人は、違う方向に、違うところをプッシュするように招かれ、用意されている人かもしれないのです。

だから、「あなた、よく震えるね」とか、「震えっぱなしだよ」と言って、これ、バカにすることも呆れることも必要ないんです。「震えてますね」と言って、いいね！マークを、いっぱい押してあげてください。で、震えている人同士が、「そうだよ」と言って燃えてる。もうダブルで、いいね！マークをしてあげてください。でもパッと横見て、「あ、この人、全然震えないな」という人もいます。これを、俗に「しらけた人」と言うよね。「しらけてるねー」と言うかもしれないけれど、それも、いいのです。その人には、その人の震えるところがあるのです。

それぞれの『神の像』と『神の似姿』で、[相手を責めず、傲慢にならず、卑屈にならず、・・・]と、さっき読んだでしょう。コロサイ人の手紙のところで。[そうあってはいけない。そういうふうに互いに慈しみ合うのだよ]ということを行っているわけです。19:58.14

でも私たちが、本当に大切にしないといけないのは、そのプルプルッと震える『神の像』の源（弦）。それは、実在しており、完全にあることですから、大切なんです。それは身近にいるからじゃないよ。会ってないのに遠くにいるのに、その人の存在は、我々と一つにされて、うちにあるわけです。

だから、その人が会ってない。電話もしてない。話もしてない。でも、その人は何か震えたということは、もう全ての通信手段を超えて、霊と霊の中で、自分の中で、(うん？彼は何かあったか、前進してるな。こうなったな。彼女はこうなったな。)というのは、こっちの内でも、ピーンっとくるわけです。21:11.76

だから、『神の国の共同体』というのは、神の『像』と『似姿』を分け合った、一つの御霊を分け合った者同士として、私たちはきっちり頭の整理をつけとかないといけません。

それをただ一緒にの教会に行っているからとか、若い時一緒だったからとか、仲がいいからとか、なんか交わりで話が合うからとか、・・・そんなレベルもあるのだけど、きっちりそこは、頭を据え替えて、チェンジして置いた方がいいのです。

5C19 回目キングダムセミナー20260711

そうでなかったら、次の我々にやってくる変化を受け取れません。一つ今あることを受け取るから、次のものが来るんですよ。今ここまで来ているのを受け取らないで、「ふーん」と言っときながら、「もっといいことを学びたいな」とか、「もっと深いところに行きたいな」とかっていうのは、それ無理です。今、我々のところに来ているレベル、その神様のアタック、チャレンジを自分のものとして、今日がその日として、しっかり受け止めてやることなのです。そして我々は、一枚一枚、古き上着が脱がされて、新しくなっていくのです。

だから、人と人との関係性で私たちは、周りの人と出会い、付き合うときに、何かの対象として、ポツンと見る。・・・それは、主を知らなかった頃から、人生を生きてきた『生き様』の中でみんな、周りの人との接し方を、それぞれ蓄えているわけですよ。それを習い性になってきた人との出会い方、付き合い方というものを、ぼやっと見て、(あの人はこう、この人はこう、あの人の嫌だわ。この人いいな。)とか、もういろんなものがつきまとうけど、大切なのは、その人の中にある『神の像』『神の似姿』というものに焦点を当てることです。どんなその人の見かけ、見た目、そんなものは肉によって見るわけだから、それは関係ない。もっと深く、〈その人の神と私とその人〉との『関係』の中で、その人の『神の像』と『神の似姿』に目を留めて関心を持つのです。24:41.34

でも、自分と一緒にその人も生きてきた長い間の歪み、苦勞、いろんな習性がその人にもつきまわっているわけ。それがその人の表面に色々と出ているわけです。自分もそうでしょ。でも、自分をどのように見るかということ、そしてその人をどのように見るかということ、・・・その点において、その人に対する啓示を受け取る。

「あ、この人は、表面いろんな苦勞をして、今、かたちがこうなって、大変なところがあるけれど、この人の中にある『神の像』は、この人の『神の似姿』は、この人の苦勞でパリパリ鎧をまとったような中からも、かもし出ているよね」と。

私たちはその人が『神の像』として、どういう『神の像』なんだ？ということに、本当に愛着を持って、その人を包んで、見ていかないといけない。それは主が私たちにしてくれたことです。「主が自分にしてくれたように、私も隣人と、目の前の人にそのようにします」と。私と彼女とか、私とあの人はなくて、『私とあなた』として、その人と出会うのです。26:37.32

私の願いや思いというもの、その人にしてもらいたいこと、こうあってもらいたいのだという願いが、湧いてきますよ。でも、それをその人に、「あなたはこうあるべきだ」なんて言って、押し付けても、その人がそれを主からのものとして、自分で受け止めて消化して一歩進まなければ、あなたがいくらこうだろうああだろうと言っても、そうは、なりません。

でも、その人が一歩開いて、自分を砕いて、一歩出て、入れる領域にあるのに、相変わらず自分の我を通して、「私には、出来ない。このままだ。」「このままでいたい」と言ってばっかりいて、一歩も前に出ようとしない時に、本当に強く厳しく言う必要がある時もあるでしょう。それはその時、その時の聖霊の現れで。

でも、我々は『向かい合う者としての助け手』なんです。『エゼル・ケネグドー』(創世記 2:18) 向かい合うものとしての助け手、これがふさわしい『助け手』なんです。28:27.90

5C19 回目キングダムセミナー20260711

その人に向かい合って、その人の助けになるにはどうしたらいいかということは、その人に対する深い啓示を得る
ように、主と聖霊と自分は格闘しないとけません。

自分のその人に対する欲求を、バンバン出せばいいというものではない。私とその人の間には、主がおられるんです。相互内在した者同士の間には、主が立っておられるんです。直接にその人の胸ぐらを掴むことはできません。その人に対して、どうしたらいいかということを、主と格闘しながら、その人に向かうということなのです。

だから、相手と自分たちが、これから打ち開いていく土地を、領域を、どのように相手と一緒に治めることができるか。それを、神と共に『治める』ということ。そこに私たちの格闘があるわけです。30:19.20

はい、それでは、97 ページの途中まで読みましたけど。97 ページの一番下の段落見てください。続きをちょっと読んでいきます。

今話しているのは主イエスとあなたのことですが、この御言葉は私たちが主との相互内在にあるなら、私たち信者
同士に同じ『特権』があることを示しています。・・・これお分かりですね。

このように、互いについての啓示を互いが持つという『王権』を私たちは行使できるのです。肉のレベル、あるいは自然のレベルにおいて、互いを知っている以上に、神の国の中で、互いがどんなに貴重でユニークな存在であるのか、私たちは知る必要があります。御国の秩序の中で、彼は何なのか。キリストのからだ、その家族の中で、彼女はどのような人なのか、私たちは御父からの啓示を得ることができるのです。

相手に対する肉・魂の次元での願望や期待ではなく、霊の次元からの、相手のそのままの姿を常に持っていたい
ものです。人間の肉や魂による啓示ならば、その人の変に思われるわずかな言動でつまづいて、イメージも熱意も枯れ果ててしまいます。しかし、霊の内にやって来た神からの啓示ならば、枯れ果てません。相手がその啓示と正反対の状態に現在あったとしても、霊の啓示に基づいて、預言し続けるでしょう。

・・・この預言というのは、自分の中の神の似姿の溢れに従って、その人にかけてたくなる言葉が湧いてくる。それが預言です。何も仰々しく、「神は、こう言われる」と言わなくてもいい。『神の像』と『神の似姿』で、我々は預言し合えるのです。楽しいですねえ。その預言する者同士が、もっと語り合いたい。もっと出会って喋りたい。それ、当然です。

はい、もう少し先を読みます。

このような互いの完全な啓示を持つに至るのは、メンバーそれぞれが相当の成熟に至った時であることは言うまでもありません。それは私たちの神の子としての発達段階によります。ですから、《神の子の発達段階》という話題で、いずれ学びと黙想の時を持つことになるでしょう。（・・・これは、未だしていません。）

5C19 回目キングダムセミナー20260711

とにかく、人は自分が見えている神の国の幅でしか相手を量ることができません。ですから、その人の持っている神の国の啓示が狭く部分的なものならば、その狭い領域からでしか相手を理解することができなくなるのです。・・・だから謙虚でいたいですね。

神の国を求め、その広さ深さを知ることは、私たちが互いをより深く知ることにつながります。夫は自分の妻について啓示を持っているでしょうか。また、妻は夫をどのように見ているのでしょうか。親は子供たちの一人一人に、神が創造した個性を見ているのでしょうか。牧者は教会のメンバーの一人一人に啓示を持っているのでしょうか。

確かに出会ってすぐに得られる場合は少なく、多くの場合、その人のことを思いつつ父なる神と共に長い日々を過ごすことでしょう。その人と直接語る前に、その人について神と語り合うのです。何ヶ月、何年と祈りと黙想の時間が続くかも知れません。私たちが互いに養い、成長するためには、こういう年月を必要とします。

つまり、私たちは決して直接的に相手に向かうことはできないということです。兄弟に何かを語るとき、兄弟にダイレクトに語る前に、兄弟のことについて主と語り合うことが必要です。厳密に言うなら、兄弟について、イエスの中で父なる神と語り合うのが先だということです。そこで啓示を得た後に初めて、自分の得た啓示の分量だけを兄弟に語ることが許されているのです。私と兄弟の間には、常に神が立っておられます。

私たちは親しいから、家族だから、夫婦だからといって、直接的に結び合わされているのでは決してないのです。これが主との相互内在にある者たちです。つまりなく感じますか？水臭く思いますか？これは寂しい関係でしょうか？いいえ、これが真の一致への鍵なのです。肉と魂から来る一致への欲求に、終止符を打つことなのです。

なんと、しばしば自分の個人的願望と期待をもって、私たちは兄弟にダイレクトに向かうことでしょうか。あるいは兄弟のことで、神の前に静まって得たわずかばかりの啓示に、自分の願望をミックスして、どれだけ大胆に兄弟の前に立っていることでしょうか。「あなたを愛します。祝福します」と言いながら、どんなにか自分の魂を兄弟に押し付けていることでしょうか。

それは祝福することではなく、呪うことです。その人を解き放ち自由にすることではなく、束縛し、支配することです。人が人の心を支配することを、神は決してお許しになりません。

"互いについての啓示をもつ"という『王権』を、真剣に行使し始めたなら、"人を祝福すること"と"支配すること"が紙一重であることに気が付き始めます。また、"愛されていることの平安"と"支配されている平安"が錯覚されやすいことを知り始めるのです。幼い頃を除いて、これらの混同と錯覚を神は解き放ってはおられません。

急ぐことはありません。また、一度に大勢の兄弟姉妹についての啓示を得ようと焦らないようにしましょう。身近な一人からで十分です。「今回、これを完璧に行使しましょう」というのではなく、その決心です。38:58.32

神の国という『関係』（神の支配する状態）の一つの特徴に、私たちは目を止め始めたに過ぎないのです。私たちの心に、この御言葉が成就する部屋をまず造ることから、本当の変化が始まります。

5C19 回目キングダムセミナー20260711

どうかじっくりと自分の中で何度も読んで味わって欲しいと思います。

《互いについての揭示を得る王権の行使》というのは、『神の像』と『神の似姿』があるゆえに、聖霊の内住によって、これは確実にできることなんだと、思い始めてみてください。「え？」と、びっくりするだけじゃなくてね。

すでに何人かの方、あの人もこの人も長い年月の間、そういう経験がおありだと思います。あの時は「そうだったな」と。でも、それが、遠い、遠い過去や昔のことではなくて、私たちの日ごとの出来事。今日がその日と信じ、解放し始めようではありませんか。主との関係性になるように。

はい、7月のキングダムセミナーをこれで終わります。ありがとうございました。

賛美①今日がその日